

「全国学力・学習状況調査」

校長 江口 満

平成26年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成26年4月22日(火)に、3年生を対象として「教科(国語・数学)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

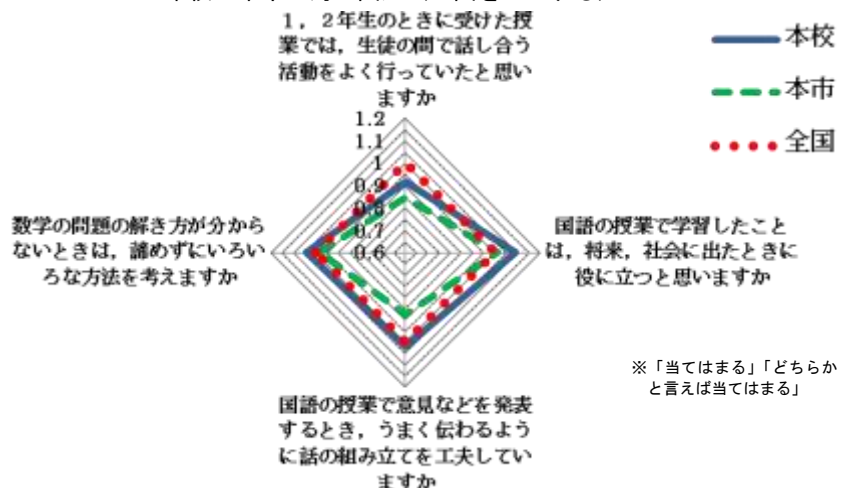
① 学力調査結果と分析

カテゴリー	全国平均との比較	学力調査の分析(傾向や特徴)
国語A	全国平均正答率を下回っている。	<ul style="list-style-type: none"> 全体的には、全国平均正答率を下回っているが、読む能力を問う問題は比較的できていた。 書く力を問う問題に課題があり、書くことを習慣化する必要がある。
国語B	全国平均正答率を下回っている。	<ul style="list-style-type: none"> 全国平均正答率を下回っているが、昨年度より県平均正答率に近づいてきている。 文章の内容について根拠を明確にして自分の考えを書く問題に課題がある。
数学A	全国平均正答率を下回っている。	<ul style="list-style-type: none"> 全国平均正答率を下まわっていた。領域別に見ても4領域ともに全国平均を下回り、特に関数の領域が平均との差が最も大きかった。無解答率に関しては関数、図形の順に高くなっている。
数学B	全国平均正答率を下回っている。	<ul style="list-style-type: none"> 全国平均を下回っていた。領域別に見ても4領域ともに全国平均を下回り、数学A同様に関数の領域が平均との差が最も大きかった。特に証明の記述は正答率が低く、無解答率が4割を超えている。

② 学校における学習状況に関する調査結果と分析

- 話し合う活動をよく行っていたと答えていた生徒は、本校で取り組んできた対人スキルアップの授業研究の取組で、年々確実に増え、本市の平均を上回っている。今後もグループでの調べ学習や話し合いの活動を教科の授業等に取りこんでいく。
- 同様に対人スキルアップの取組で、国語の教科にも相手に伝わるような話し方の工夫をしている生徒が増えている。
- 数学の問題をあきらめずにいろいろな方法を考える生徒の数は、全国平均を上回っているが、それが平均正答率の高さにつながっていないのが課題である。

本校と本市の対全国比(全国を1とする)

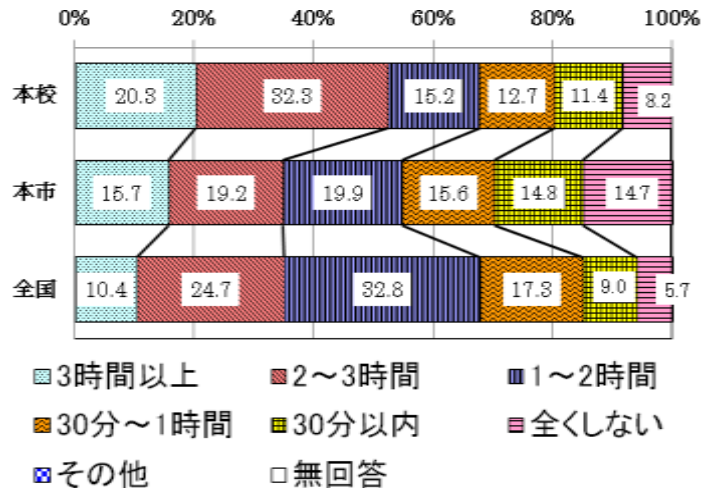


2. 家庭生活習慣等に関する調査結果の概要

① 家庭学習習慣に関する調査結果と分析

- ・学校の授業以外の普通の勉強時間は全国より長い。2時間以上が勉強している生徒が半数をこえている。塾や家庭教師のもとで学習している人はほぼ全国なみで6割ほどであるので、塾のないときもやっている生徒が多い。
- ・学校の授業の予習や復習をしているかどうかでは、予習では全国34.2%がしているに対し、29.7%である。復習は全国50.4%がしているのに対して、42.4%である。宿題に追われて自学自習の時間が少ない。
- ・全く自分で計画をたてて勉強をしていない生徒も全国に比べて多い。今後は以上の結果を踏まえて、家庭学習の具体的な取り組み方を指導する必要がある。

学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む)



② 生活習慣等に関する調査結果と分析

- ・テレビ等の接触時間は全国とおなじくらいだが、テレビゲーム等の時間は全国に比べて少し高めになっている。特に3時間以上の生徒が増えてきている。
- ・ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことが多い生徒が年々増えてきており、いずれも全国をこえている。
- ・将来の夢や目標を持っている生徒も年々増え全国をこえている。今後はそれぞれの夢を実現させるために具体的な目標設定を行い、行動に結びつけさせることが必要である。
- ・人の気持ちが分かる人間になりたいという生徒も年々増えている。このことは対人スキルアップ授業の取組の成果がよく表れていると考えられる。この取組は他の生活習慣全般にも好影響を与えていることが確認できる。

3. 調査結果から明らかになった課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- ◎学力向上に関する職員会議や教科部会の定期的な実施
 - ・対人スキルアップを生かした教科での授業の職員研修を行う。
 - ・授業改善ハンドブック等を使用しての授業研究についての話し合いを行う。
 - ・授業実践研究を行う。
- ◎学力向上のための特設時間の実施
 - ・朝読書を実施する。
 - ・国数英で定期的に小テストを実施する。
 - ・授業の導入として、復習テストを実施する。
 - ・定期考査前に質問教室を実施する。
 - ・小中連携サポーター(計画的な配置、活動補助、プリント整備)の活動を推進する。
- ◎学力向上のための特設時間の取組内容計画表作成(学力向上推進委員会・各学年)
- ◎「書く」ことを習慣化
 - ・学習の最後、3分間を「振り返りタイム」として、振り返りを書くようにする。
 - ・学習のめあてなど、ノートにきちんと書かせる。
 - ・行事の度に作文を書かせる。
 - ・総合的な時間に新聞作成をする。
 - ・夏休み、冬休みのしおりに三行日記を書く。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ◎宿題のスタンダード化(時間・学年別・教科別内容)
 - ・過去問題、アシストシート、ワーク等を長期休暇中の宿題として取り入れる。
 - ・「家庭学習チャレンジハンドブック」の活用を図る。
 - ・毎週、漢字ノート、読解スキルを定期的に宿題として出す。
 - ・家庭学習時間を設定する。
- ◎全国学力・学習状況調査の課題と取組等を保護者へ通知
 - ・学校だよりを配付する。
 - ・HPにも掲載する。

全国学力・学習状況調査

		国語A	国語B	数学A	数学B
平成24年度	本市平均正答率	73.5	61.1	58.6	43.8
	全国平均正答率	75.1	63.3	62.1	49.3
	差	-1.6	-2.2	-3.5	-5.5
平成25年度	本市平均正答率	74.7	65.0	60.3	38.2
	全国平均正答率	76.4	67.4	63.7	41.5
	差	-1.7	-2.4	-3.4	-3.3
平成26年度	本市平均正答率	77.2	47.6	62.4	54.4
	全国平均正答率	79.4	51.0	67.4	59.8
	差	-2.2	-3.4	-5.0	-5.4

- 中学校では、A問題、B問題とも、全国平均正答率を下回っている。国語A、国語Bではその差がわずかに開いているが、数学Aでは差がわずかに縮まり、数学Bでは2.2ポイント縮まっている。

全国学力・学習状況調査

<家庭学習等>

- 学校以外（塾、家庭教師含む）の学習時間では、1時間以上勉強すると答えた児童生徒の割合は、小学校では増加しているが、全国と比較すると、小学校・中学校ともに大きく下回っている。
- 中学校では、平日3時間以上学習している生徒の割合は全国を上回っている。しかし、全くしていない生徒の割合も全国を上回り、2極化の傾向がうかがえる。
- 「読書が好き」と肯定的に答えた児童生徒の割合は、昨年度より増え、全国を若干上回っている。

<携帯電話やスマートフォン・テレビ・ゲーム・インターネット等>

- 携帯電話やスマートフォンで通話やメールをほぼ毎日している児童生徒の割合は昨年度よりも増え、小学校・中学校とも全国を上回っている。

<学校生活>

- 「学校で友達に会うのは楽しい」「どちらかといえば楽しい」と答えた児童生徒の割合は、小学校・中学校ともに、全国と同程度で、その傾向が継続している。

<基本的な生活習慣>

- 朝食の摂取率は、小学校・中学校とも、全国をわずかに下回るものの、ほぼ同程度である。
- 起床時間・就寝時間は、小学校・中学校とも、全国より遅い傾向が見られる。

<家庭でのコミュニケーション>

- 家の人と普段、夕食を「一緒に食べる」「どちらかという食べる」と肯定的に答えた児童生徒の割合は、全国と比較して、小学校は同程度であるが、中学校では若干下回っている。

<自尊意識・規範意識>

- 「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある」「自分にはよいところがある」「将来の夢や希望を持っている」と肯定的に答えた児童生徒の割合は、全国と同程度である。
- 「学校のきまり（規則）を守っている」「どちらかといえば守っている」と答えた児童生徒の割合は、前年度と比べると、小学校では若干減少し、中学校は同程度である。
- 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」と答える児童生徒の割合は、小学校・中学校とも前年度より増加し、中学校では全国を上回った。